

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

II 主要な労働組合の大会

1 総評の大会

3 総評第六八回臨時大会

大会の課題——春闘と選挙の態勢固め

総評は、春闘と選挙の態勢固めをはかるため第六八回臨時大会を、「ストップ・ザ・中曽根」のローガンのもと、二月一五・一六日の両日、東京・日比谷公会堂で開催した。大会は、(1)賃上げ七%以上、二万円の賃上げ実現、(2)人事院勧告完全実施、(3)一兆四千億円の減税実現、(4)八三年政治決戦勝利などを柱とする八三年春闘・政治決戦闘争方針案および当面する年金改悪阻止のための運動強化等の付属方針案を承認し、さらに「今こそ、日本の未来と進路を決する重大な闘いに総決起し、勝利しよう」との大会宣言を採択し閉会した。

冒頭のあいさつのなかで榎枝議長は、「ストップ・ザ・中曽根の闘いこそがいま、最大の課題であり、八三年国民春闘も政治決戦も、反中曽根の闘いの高揚いかにかかっている」と述べ、今春闘を政治春闘ととらえ、政治対決の必要性を強調した。具体的な戦術として、全労働者と全野党、民主団体が共闘を強め、国民が総反撃、総行動に立ち上がることを訴えた。同議長は、中曽根内閣について、「内政では国家主義、外交では大国主義、防衛では軍国主義に急傾斜するなどすべてが独裁的、好戦的で、歴代内閣のなかでも極めて反動的で危険な政府であり、政治体質は最も右翼的政治勢力の台頭を代表するものだ」と批判した。

春闘方針ほかの提案と質議討論

ひきつづき富塚事務局長が「八三年春闘・政治決戦闘争方針案」を提起し、とくに賃金闘争の戦術配置については、(1)中堅・中小の金属、化学、商業サービス、マスコミなどの組合が三月三十一日～四月二日に回答指定日を設定、三月三十一日に統一ストを構える、(2)四月中旬に予想される金属労協回答の賃金押し上げをはかる、(3)四月二四日の統一地方選挙後に官公労などを中心に後段闘争を配置し、同時に、中小・地場産業労働者の格差解消をめざす——という三段階の闘争日程を提案した。

これにたいし主要な民間単産から「四月中旬のJCグループの闘いから一〇日以上もブランクを置いた後段の闘いができるのか。四月上、中旬に官民あわせた集中的な闘いを配置してほしい」(全国金属)、「春闘の決戦ゾーンはできるだけ短期集中的に配置し、四月上、中旬に決戦時期を設けてほしい。三段階戦術配置では、中小労組を孤立化させ、産業間の賃上げ格差が拡大するばかりだ」(全日通)など、本部提起の「三段階論」への批判的な意見が出された。

また、大会初日、運輸一般、建設一般全日自労、医労協、国公労連の統一組懇系四単産が、労

働戦線統一問題について緊急動議を提出し、(1)総評は全民労協に参加せず、あらゆる右翼的策動にたいしてたたかう方針を確立する、(2)総評は七〇年大会で確認した労働戦線統一四原則にもとづいて対処することを求めた。しかし、この緊急動議は、賛成少数で否決された。さらに統一労組懇系の組合は、春闘要求や春闘のたたかい方、四団体共闘などについても批判を展開した。

事務局長の総括答弁と諸決議

総括答弁にたった富塚事務局長は、「この春闘で具体的な成果をあげないと政治決戦を十分に闘えない。そのため、人勧凍結、行革など官民の違和感をなくし、全労働者が立ちあがる態勢づくりをめざす」と発言した。春闘の戦術配置については、「三月三〇日から四月二日までを回答指定日とする第一グループの闘いを重視することとし、減税実現などをからめて三月三十一日に官民統一ストを配置して、同盟、全民労協など他の団体にも呼びかけていく。また、四日中、下旬の闘いについては、金属労協回答の動向や政治情勢をみながら判断していく」と述べるにとどめた。さらに、人事院勧告完全実施、減税、田中辞職勧告決議などの要求実現に大衆動員をかけるなど、院内外の活動強化を主張した。

大会は最後に、米・原子力空母エンタープライズ佐世保寄港阻止闘争に関する特別決議、日雇健康保険の廃止反対、不安定就業労働者の社会保険適用と制度改善闘争を強化する決議、雇用失業対策の抜本的拡充、失対事業の六五歳線引き首切り阻止のたたかい強化に関する決議、和歌山県田辺市天神崎買い取り(ナショナル・トラスト)運動等に対する特別支援決議の四つを採択し、大会スローガンと大会宣言を決めて閉会した。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
